

蘇南中だより



自己を生かす生徒

助け合い励まし合う

知恵を働かす

たくましくやりぬく

令和7年12月1日発行

「共に生きる」

国際教室主任 青山

11月19日に本校で音楽会が開催されました。この日、ばら教室 KANI で学んでいる1人の生徒が音楽会に参加しました。ばら教室 KANI では、初めて来日した生徒が約4か月間、日本の学校生活や日本語を学びます。その期間中に3回の学校登校日が設定され、蘇南中学校での学校生活を経験します。この生徒は、その登校日の時に在籍学級の合唱練習に参加し、自宅でも動画を見ながら練習していたそうです。その生徒が、ばら教室 KANI の修了式で話した言葉です。

おんがくかい
音楽会に出ること

そなんちゅうがっこう おんがくかい
蘇南中学校の 音楽会に 出ることが わかって うれしかった です。

クラスの中に 入れたから です。 みんなとうたったら 天国にいるようでした。

また、学校登校日の感想では、音楽会当日の様子を次のように書いています。

がっこうとうこう び かんそう
学校登校日の感想



At first i was nervous cause nahalimat
ho sa lyrics pero nikanla gihapun ko. and nag
nakaag new friends gi igihan ko ni bello and nibitara
na okay lang daw nga dili kanya nako
memorize ang lyrics basta maka kanta
lang daw ko.

訳：最初は緊張して歌詞を忘れました。学級の仲間とみんなが「歌詞がわからなかったとしても、歌えば大丈夫だよ！」と言ってくれました。だから歌い続けました。新しい友達もできました。

国籍や言語が違い、言葉がうまく伝わらない。合唱の歌詞がわからない。それでも、この生徒は学級の一員として安心して歌い続け、新しい仲間とのつながりを感じています。決して簡単なことではなく、そこでは言語や価値観の違いによる葛藤や誤解が生じることもあります。しかし、この生徒の言葉や姿からそれらを共に乗り越えている子どもたちの力を感しました。その土台には、当日までの日常生活で「ちがひ」を当たり前のように受け止め、認め合い、共によりよくなるようとする学級の先生と仲間のあたたかい関わりがありました。初めての日本、初めての中学校で緊張や不安もあったと思いますが、音楽会当日は、緊張した面持ちで合唱台に立ち、クラスの仲間と一緒に、覚えた歌詞を丁寧に歌っている姿が印象的でした。歌い終わり、大きな拍手を受けた後には私たちが想像する以上に、気持ちの高揚があったのだと思います。

私たちが生きる社会は、異なる文化背景をもつ人々が共に生きている「多文化共生社会」です。現在、日本の在留外国人の数は約368万人で、前年度から約18万人増加して過去最高を更新しました。可児市の外国籍住民は市民全体の9.3%にあたる92,774人になり、43か国の人々が住んでいます。お互いの「ちがひ」を認め合い、共に生きるために歩み寄り、よりよい場をつくろうとする子どもたちの姿から、学ぶことが多くあった音楽会でした。